

## メロンのカルテック農法・施肥例 (10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早めに全面に投入して、耕耘します (土壌全体に肥料分が行き渡るように)	ラクトバチルス 600g … 保水性よく、深く根が伸びやすい土を作ります。 堆厩肥 1トン (～2トン。もし有機物がなければ米ヌカ 150kg以上) ※堆厩肥の量が少ない場合は複合肥料を施して下さい(各成分 12kg)。 硫酸 60kg (もし複合肥料ならN成分:12kg程度) … (追肥をする場合) ※チッソは有機化し、緩効的に効きます。チッソを増やした場合にも、植付け時には土壌EC:0.2以下に下りますから、トンネル・マルチ栽培などで追肥をしない(少ない)場合は、硫酸80kg(N:16kg)を施します。 ※原則的に、土壌全層・均一に堆厩肥や肥料分を混ぜ込んで、局所施用や待ち肥のような肥料ムラ・生長のムラを無くします。このため肥料が薄まりますので、硫酸100kgで少追肥を推奨します。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布 (畑土全面またはウネの全面に、均等に散布し、なるべく土に混ぜます。)	畑のカルシウム 80kg ※チッソ多肥の場合は、カルシウムも 100～120kgと、多くします。 ※カルシウムは開花・着果・果実品質を決定しますので、多めにして下さい。  ※もし特に心配な畑で農薬の土壌消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを補ってください。(同時施用可能)
育苗	床土(培土)	培土に 畑のカルシウム 3%ほどを混和しておくか、1ポット当たり20グラム程を置き肥すると、徒長せずガッシリ充実した苗ができます。
	散水時に散布 (葉面散布・灌水)	濃縮酵素液 (500倍) … 根を強く動かし、導管を強くし、生長を促進 カルテックCa液 (500倍) … 茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作ります ※台木の鉢上げ(移植)後、穂木の発芽後に(必ず両方同時に)、酵素液・Ca液を各1000倍、1～4日間隔で順次散布すると、茎が太く充実し、接木が楽になります。 ※接木4日後から4～5日間隔で、最初だけ1000倍、以後500倍で交互に、葉上からタツプリ散布します。 ※定植4日前には、苗の仕上げに、Ca液を散布して充実させます。
定植時	苗のドブ漬け・定植前後の灌水 ※以降は状態により適宜繰返し	濃縮酵素液 2～5リットル灌水 (希釈倍率は500倍程度で適宜) ※活着・深層への根張り促進。(N成分少なく、上根でなく深い根を張らせる) ※ネコブ線虫・萎凋病の解消。茎の地際も強化され、ツル枯れも軽減。 (定植前後の灌水でタツプリと深く湿らせ、その後、初期は灌水回数は少なめに) ※生長を促進し、シオレを防ぐには、7～15日間隔で葉面散布
開花・着果前	着果前のカルシウム	カルテックCa液 500倍 葉面散布、または 2リットル灌水 ※もしも雌花が着かない、または落花するほど軟弱な場合や、雄花が少なくて雌花の先のツルが長く強すぎ、節間が長いチッソ過多の場合は、急いでカルシウムを与えて、健全な体質に戻します。 ※着果させたい節位の開花前(前節の開花期)には、必ずカルシウムを与えて、着果と果実形成を促します。(良いメロンを作る基本) ※ただし開花・着花時には 散布を控えてください。
果実肥大期	着果後～	濃縮酵素液 500倍 葉面散布、または 2リットル灌水 ※着果後ただちに、果実の初期肥大と草勢維持・萎凋予防。 カルテックCa液 500倍 葉面散布 ※ネット発現前に散布して、蒸らしてください。
仕上げ	収穫10～7日前	カルテックCa液 500倍 葉面散布 … 糖度・旨味の増加